

要人警護 S P

赤谷慶子

S Pとは日本の警視庁警備部の要人警護の任務を擔ふ警察官の事を指す。昭和五〇年に佐藤榮作元首相國民葬儀會場におきて、當時首相の三木武夫總理右翼に殴られ負傷せし事がきっかけになり創設せられし、とウイキペディアにあり。それまでも警護はあれど、全面には出ず、目立たざるやう実施されたり。米國のフォード大統領の來日により、シュークレット・サービスの警護、疾く拳銃を抜くを得しめんがために背廣のボタン外すなど、合理的且つ目立つ警護を實施したりしに倣ひ、訓練せられたりき。

工作上、要人の隨行通譯などを擔當する際、數多くのS P達に遭遇してきたり。外國要人のS Pは來日の際には警護対象者に同行す。故福田赳夫元總理主催せしインターアクション・カウンシル、所謂OBサミットの仕事を擔當したれば、外國のS Pにもかなりの数会ひたり。

ドイツの宰相シュミット首相の四人のS Pは家族のごとく関係なりて、交代にて二名づつ同行して來日せり。現在は如何になりたりや知らねども、一九九〇年代はS Pの拳銃は成田空港にて保管するとの由、S Pより聞きたり。ルフトハンザのハイジャック事件解決により、シュミット首相は世界の中にてテロに狙われる要人の一人との事にて、來日時には日本に於ては覆面パトカー常に付きたりき。

富士近郊を訪れんとしたシュミット首相の希望なれば仕事仲間と共に富士五瑚へ案内したりき。當然覆面パトカーも同行したり。歸路澁滞のなか、先導の覆面と首相の車の間に割つて入らむとする青き車出現。突然、覆面車の屋根に赤きランプ點燈し、同じく赤くライトのつきし制御棒出づ、青き車に對し「その車、止まりたまへ」とマイクにて警告出されき。驚きしはその車の運轉手、氣の毒に豆鉄砲食らつたやうなる顔をしたりき。

東京に着くと突然首相「娘と同じ年の若き働く獨身の日本女性の住まひを見せてもらひたし」と注文ありて、なんと我が家を訪問せんとの由。覆面パトカーよりS P出づ、まずはS P我家に危険物なきか檢閲せんといふ。うゝん、多忙にて散らかつてをればすべなしと思ひたれば、首相「迷惑かけたくなければ」と我家見るを斷念せらるるによりて、困却を免る。さういへばS Pは警護対象者訪るる前に必ず事前に場所や会場を檢閲す。

會議にてドイツを訪れたる時、シュミット首相のS Pの一人拳銃を吾に見す。スミス&ウエッスン製にて大きく重たく、大きな手、尙且つ相當なる筋力なくしては片手にての發砲は難かるべし。仕事の合間に景色の綺麗なる場所に案内してくるといふ事で、シュミット首相と共に行動しき。車はメルセデスベンツの特製で、防弾になりたれば、ドア重く、自分の片手にては到底開閉めが能はず。車外に出でて絶景を見たりし時に、元首相なりといふ事に氣付きし男性近づきてきたり。日ごろ柔和なる表情のS P突然顔こはばらせ、シュミット首相の脇にゐし吾とその男性の間に、割るかのごとく身體半分を寄せ、懷の拳銃に手をやりき。その男性はやがて離れしかば、事なきを得れど、げに拳銃に手を伸ばすなりと驚きと恐怖とを同時に味はふ。

彼らの自分の警護対象を絶対に守るといふ、氣迫と使命感に圧倒せられき。普段は仲の

良き家族の一員のごとく振る舞ひてあれば、尙更なりき。日常會話より、彼らのシユミツト首相に對する強き尊敬の念と愛情のごときものを感じき。日本のSPも同じならんかとの思ひに驅られたり。

(平成二十九年三月二十二日受附)